

コード No. 10025

**Anti-Human
ApoE4 (5B5) Mouse IgG MoAb**

容量 : 200 µg

はじめに : アポ E は 299 個のアミノ酸から構成され、N 末端から 112 番目と 158 番目がシステインのものが E2、112 番目がシステインで 158 番目がアルギニンのものが E3、両方ともアルギニンのものが E4 と呼ばれています。これらのアポリポタンパク質 E をコードする遺伝子の遺伝子型は、ホモ接合体、ヘテロ接合体の各組み合わせとして、(E2/E2), (E2/E3), (E2/E4), (E3/E3), (E3/E4), (E4/E4) となり、全てのヒトはこれらのいずれかに分類されます。長寿に伴う孤発性のアルツハイマー病患者は(E4/E4), (E3/E4)型に多く発症しています。逆に E2 を含む(E2/E2), (E2/E3), (E2/E4)では少なくなっています。さらに、抗酸化作用は E2>E3>E4 の順になっており、E4 がアミロイド β タンパク質の繊維化を促進するとの推測もなされています。このように、ヒトの血液中のリポタンパク質の構成成分の一つであるアポリポタンパク質 E4 (ApoE4)をコードする遺伝子は、認知症感受性遺伝子または危険因子と推定されています。

免疫抗原 : Human ApoE4 部分合成ペプチド

起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(X63 - Ag 8.653 × BALB/c マウス脾臓細胞)クローン名 : 5B5 サブクラス : IgG₁

精製方法 : 抗原特異精製

包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 200 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2~8 °C 保存 5 年間安定
溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 1~2 µg/mL にて使用可能
ホルマリン固定、パラフィン包埋切片の場合ギ酸処理*¹ の後、さらにオートクレーブ処理*² 又はマイクロウェーブ処理を行なうことにより良好な染色性が得られます。)
*1 ギ酸処理方法 : 脱パラフィン後ギ酸に 5 分間浸漬した後、流水洗浄
*2 オートクレーブ処理方法 : 110 °C 10 分間 (10mM クエン酸緩衝液 pH6.0)
: ウエスタンブロッティング 10 µg/mL にて使用可能

特異性 : ApoE4 と反応し、ApoE2, E3 とは反応しません。